

**〔長久手町業務評価票：平成20年度業務〕**

担当課・係名	子育て支援課 こども係【問合せ・質問等の先（電話・内線番号）153】		
第4次総合計画の 該当項目	3節132項	児童健全育成事業の充実	

<b>業務の名称</b>	児童館管理運営業務		
(1)根拠法令・条例	児童福祉法 長久手町児童館の設置及び管理に関する条例		
(2)当該業務量 (延人員規模含む)	総業務量の 34.0 % (係の総業務量を100%とする) 職員延人数：1443.5人・日 (臨時雇用者延人数：1648.4人・日)		
(3)事業費 (人件費分を除く)	35,668千円 (平成20年度決算 (細目・細々目の実績から抽出・算定する))		
(4)補助率(補助金がある 場合のみ記載)	0.0 % (平成20年度実績)		
(5)業務期間	開始した年度	昭和49年度	終了(予定)年度 年度

(6) 業務の概要 (簡潔に箇条書きで記載)

①業務目的 (達成目標)	児童に健全な遊び場を与え、その健康を増進し、情操を豊かにするとともに、異年齢児、地域との交流の場とすることを目的とする。
②業務が対象とする住民 (地域、層)	乳幼児及びその保護者、小学生を中心とした児童。
③業務の具体的な実施内容・方法 (平成20年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で遊ぼう教室 (年5回、満2、3歳児及び保護者対象、レクリエーション、情報交換)</li> <li>・ネイチャー探検隊 (年7回、小学生対象、自然観察会)</li> <li>・陶芸教室 (年1回、小学生対象、県陶磁器資料館)</li> <li>・お楽しみ遠足 (年1回、小学生対象、瑞浪化石博物館・サイエンスワールド)</li> <li>・幼児教室 (5児童館各月1回、未修学児童及び保護者対象)</li> </ul>

親子で遊ぼう教室について、平成20年度から開設した子育て支援センター事業として実施

【業務結果の説明指標】

結果の説明指標		17年度	18年度	19年度	20年度 実績	将来目標
1	親子で遊ぼう教室	年4回	年5回	年5回	年5回	年5回
2	ネイチャー探検隊	年6回	年7回	年7回	年7回	年8回
3	陶芸教室	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
4	お楽しみ遠足	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
5	幼児教室 (児童館5館毎月1回、8月除)	年55回	年55回	年55回	年55回	年55回

④業務の実施結果  
(平成20年度実績)

(7) 遂行上の問題点、取組課題 (箇条書きで簡潔に記載)

- ・平成20年度から、各館に嘱託員を配置、嘱託員を中心とした館の運営を軌道に乗せることが課題

(8) 改善実績 (過去4年間の実績)

- ・17年度から、児童館を従来の昼1時間(12時～1時)休館から1日を通して開館とした。
- ・17年度から、留守家庭児童に対し、土曜及び夏休み等の開館日に申請により、昼食持参を可とした。

(9) 業務の評価 (自己診断)		
評価基準	評価の視点	三段階評価 (2～0点)
①目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	2点
②コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	1点
③業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	2点
④住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	2点
⑤総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	2点
⑥他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	1点
2点：成果あり、適切だった　1点：ある程度適切だった　0点：適切でなかった、遅れている		平均 1.6点

(10) 総合評価 (課の見解)	
①今後の方向 (該当番号に○印)	1. 前年度と同じく、そのまま継続する。 2. 見直して継続（業務の拡大） 3. 見直して継続（業務の縮小） <b>④</b> . 見直して継続（方法の改善） 5. 見直して継続（他業務と統合） 6. 廃止する。 7. 休止する。
②評価理由	児童館管理運営は、行事の実施について従来からのまんねり、硬直化を考慮し、よりよいかたちで現在の児童を取り巻く環境を見据えながら、改良、改善を行っていきたい。

(11) 今後の目標・改善方針 (具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること)	
①改善目標	児童館管理運営は、行事の実施について従来からのまんねり、硬直化を考慮し、よりよいかたちで現在の児童を取り巻く環境を見据えながら、改良、改善を行っていきたい。
②改善時期	平成22年度から
③改善方法	各館の特色を生かした行事、クラブ活動等の計画を現場の嘱託員から提案できるように館の運営に対する嘱託員の意識、関わりを深めるよう指導する。